

「ホッカイシロシヨウズ」と同じ中の晩であるが、同品種よりやや早い。

5. 耐倒伏性はやや強、低温抵抗性は弱、落葉病及び茎疫病抵抗性は強、ウイルス病抵抗性は弱である。
6. 子実収量は「エリモシヨウズ」より低収であるが、「ホッカイシロシヨウズ」並である。
7. 粒揃いがやや劣るが、「ホッカイシロシヨウズ」より種皮色及びあん色が白く明るい色調で、加工適性が優れる。

栽培適地と奨励態度

北海道の道東の早生種栽培地帯を除く小豆栽培地帯に適する。栽培上の注意は、①ピシウム苗立枯病に対して赤色の品種より弱いので、種子消毒を必ず行い、播種量を多めとする。②成熟期前後の降雨で腐敗粒が多発する場合がありますので、刈り遅れを避け適期収穫に努める。③落葉病、茎疫病、萎凋病に抵抗性を有するが栽培に当たっては適正な輪作体系を守る。

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏 程 度	成熟期の		10a当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
					主茎長 (cm)	莢数 (莢)	子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	きたほたる	7.27	9.29	1.6	64	56	338	99	13.9	4中	2000~2003
	ホッカイシロシヨウズ	7.26	10.1	2.5	79	65	340	100	15.6	4中	
	エリモシヨウズ	7.27	9.25	3.4	72	54	385	113	15.4	4上	
上川農試	きたほたる	7.23	9.18	3.2	74	67	435	107	14.1	4中	2001~2003
	ホッカイシロシヨウズ	7.23	9.24	3.9	84	77	406	100	15.9	4上	
中央農試	きたほたる	7.30	9.24	2.0	59	52	341	97	12.5	規格外	2001,2003
	ホッカイシロシヨウズ	7.30	9.26	2.5	57	55	350	100	14.8	規格外	
道南農試	きたほたる	7.30	9.21	1.2	39	41	241	97	13.3	4上	2001~2003
	ホッカイシロシヨウズ	7.30	9.28	2.4	52	51	248	100	15.4	4上	

注) 十勝農試の成熟期は未成熟で収穫した1試験を除く。

参照 1) 北海道農政部編, 平成16年普及奨励ならびに指導参考事項, 40-42(2004).

6. 菜豆

- (1) 福うずら (系統名 十育D10号) 1999年
登録番号: (北海道) 菜豆北海道27号
(種苗法) 第10367号

セールスポイント

早熟, 多収で, 耐倒伏性に優れ, やや大粒で食味が良

い, わい性の中長鶉類品種である。

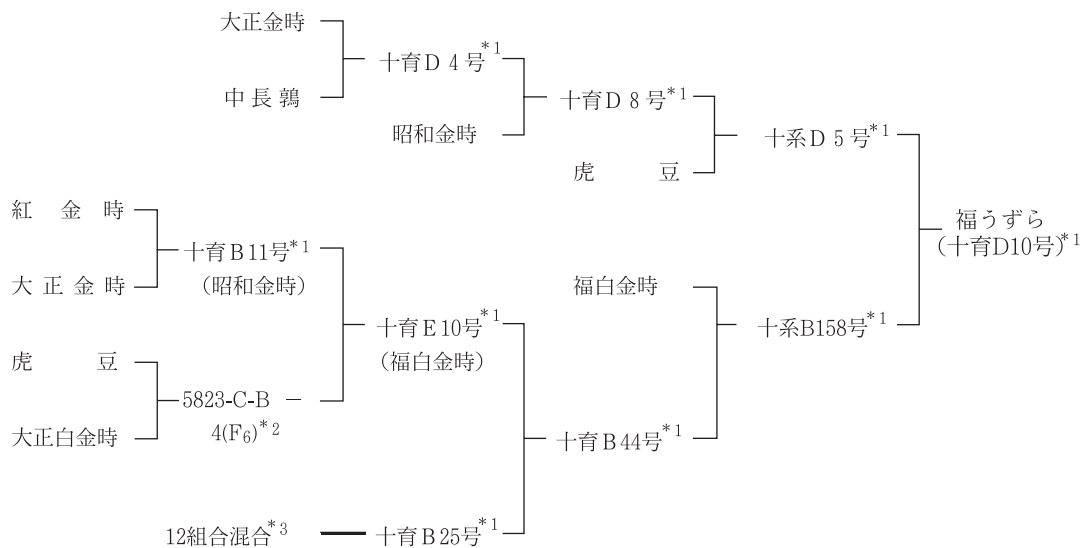
来歴 本品種は, 矮性で多収, 大粒良質の中長鶉類品種の育成を目標とし, 1990年に北海道立十勝農業試験場において, 「十系D5号」を母, 「十系B158号」を父として人工交配を行い, 以後選抜と固定を図り育成した。1995

年からは「十系D11号」、1996年からは「十育D10号」の系統名で各種の試験を行い、1999年に優良品種となった。本品種の系譜は次のとおりである。

特性概要

1. 伸育性と草型は「福粒中長」の無限半つる性に対し、有限わい性である。草丈は中、主茎節数は少である。
2. 胚軸色は赤紫で、花色は赤紫、若莢色は緑色地に赤紫色の条斑紋がある。
3. 子実は楕円体、大きさは中の大、種皮色は褐色地に濃赤紫色の普通斑がある。環色は黄褐である。

4. 開花期は「福粒中長」と同じ早であるが2日程度早く、成熟期は「福粒中長」の中に対し早の晩で4日程度早い。収量性は「福粒中長」に優る。
5. 耐倒伏性は「福粒中長」の弱に対し中、葉落ちの良否は「福粒中長」のやや不良に対しやや良である。
6. インゲン黄化病抵抗性は「福粒中長」と同じやや弱で、インゲン炭そ病抵抗性はRace 7に対し無、Race 38に対し有、Race81に対し有で、いずれも「福粒中長」「大正金時」と同じである。
7. 加工適性は「福粒中長」に比べ煮豆の皮がやや軟らかく、粘りが強く、味、総合評価は優る。



注) *1: 十育及び十系番号についてアルファベットについてBが金時類、Dが中長鶉類、Eが白金時類であることを示す。
 *2: 5823-C-B-4(F₆)は蔓性白金時類の十勝農試育成中間母本である。
 *3: 12組合混合は昭和39年に金時類F₄代集団12組合せを混合し、その中より選抜・系統を育成したもの。

栽培適地と奨励態度

全道のいんげんまめ作付け地帯で「福粒中長」に置き換えて栽培する。栽培上の注意は次のとおりである。①大粒であるので、脱穀機の回転数を調節し損傷粒の発生を避ける。②極端な多肥栽培では成熟期における葉落ち

が不良になることがある。③インゲン黄化病抵抗性はやや弱なので防除を徹底する。④その他の病害防除は従来品種に準じて行い、播種時期および肥培管理は金時類品種に準じて行う。

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏 程 度	葉 落 良 否	草 丈 (cm)	莢 数 (/株)	10 a 当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
								子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	福うずら	7.16	9.14	0.1	1.9	36	15.8	298	107	80.7	2上	1996~1998
	福粒中長	7.18	9.18	2.1	3.6	99	16.2	279	100	75.6	2中	
	大正金時	7.15	9.7	0.1	3.5	33	14.4	227	82	74.4	3下	
北見農試	福うずら	7.25	9.28	2.7	1.0	43	15.3	313	109	85.8	3上	1998
	福粒中長	7.28	10.9	3.7	1.5	107	17.8	286	100	77.5	3上	
	大正金時	7.23	9.21	2.3	1.5	39	14.0	241	84	82.8	4中	
上川農試	福うずら	7.8	8.27	3.0	4.0	51	25.3	370	118	67.3	3下	1998
	福粒中長	7.14	8.31	3.0	3.7	117	23.1	314	100	56.9	3下	
	大正金時	7.8	8.23	3.0	3.0	51	21.0	237	75	54.1	3中	

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏 程 度	葉 落 良 否	草 丈 (cm)	莢 数 (/株)	10a 当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
								子実重 (kg)	同左比 (%)			
遺伝資源 センター	福うずら	7. 6	8.23	0.3	1.8	27	12.4	197	105	62.6	2 下	1997～1998
	福粒中長	7. 8	8.25	1.1	1.8	49	13.3	188	100	56.9	2 中	
	大正金時	7. 5	8.19	0.0	2.9	24	10.0	134	74	58.3	3 中	

注1)倒伏程度：0(無)～4(甚)，葉落良否：1(良)～5(不良)。

参照 1) 北海道農政部編，平成11年普及奨励ならびに指導参考事項，17－19 (1999)。

(2) 福良金時 (系統名 十育B67号) 2002年

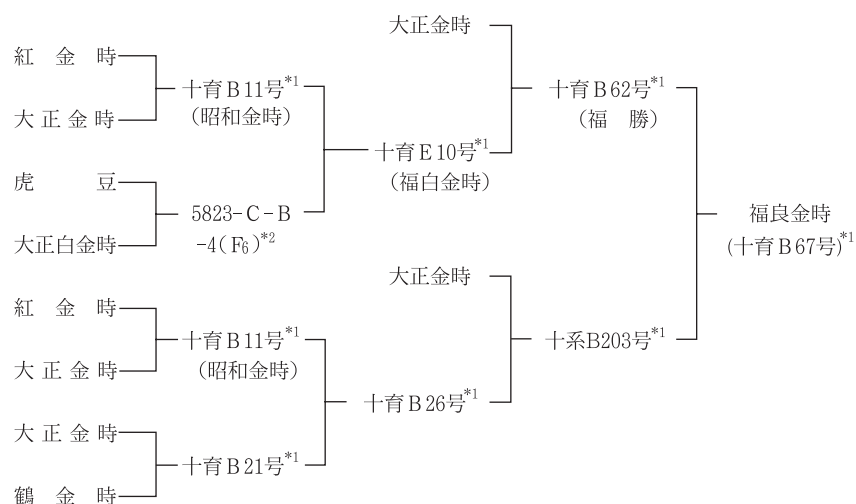
登録番号：(北海道) 菜豆北海道第28号

(種苗法) 第 号

セールスポイント

「大正金時」並の早生で，葉落ちが良く，粒大が大きく，収量性がやや優る金時類品種である。

来歴 本品種は，早生で多収，大粒良質の金時類品種の育成を目標とし，1992年に北海道立十勝農業試験場において「十育B62号(福勝)」を母，「十系B203号」を父として人工交配を行い，以後選抜と固定を図り育成した。1997年より「十系B262号」，1998年からは「十育B67号」の系統名で各種の試験を行い，2002年に優良品種となった。本品種の系譜は次のとおりである。



注) *1：十育及び十系番号についてアルファベットについてBが金時類、Eが白金時類であることを示す。

*2：5823-C-B-4(F6)は蔓性白金時類の十勝農試育成中間母本である。

特性概要

1. 伸育性と草型は有限わい性である。草丈は「大正金時」と同等で「福勝」よりやや低く，主莖節数は少である。
2. 胚軸色は淡赤紫で，花色は淡赤紫，若莢色は緑，斑紋は無である。
3. 子実は楕円体，大きさは大，種皮色は赤紫で斑紋は無く，環色は無である。
4. 開花期は「大正金時」と同じ早であり，成熟期は「福勝」の早に対し，「大正金時」と同じかなり早である。
5. 耐倒伏性は中，葉落ちの良否はやや良で，インゲン黄化病抵抗性は「大正金時」と同じ弱，インゲン炭そ

病抵抗性はRace 7 に対し無，Race38に対し有，Race 81に対し有で，いずれも「大正金時」，「福勝」と同じである。

6. 加工適性は総じて「大正金時」と同等である。

栽培適地と奨励態度

全道のいんげんまめ作付け地帯で「大正金時」の一部に置き換えて栽培する。栽培上の注意は次のとおりである。①大粒であるので，脱穀時の回転数を調節し損傷粒の発生を防ぐ。②極端な多肥栽培では成熟期における葉落ちが不良になることがある。③インゲン黄化病抵抗性が弱なので適切な防除に努める。

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏 程 度	葉 落 良 否	草 丈 (cm)	莢 数 (/株)	10 a 当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
								子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	福良金時	7.12	8.31	1.3	2.1	41	17.4	281	107	80.7	3 下	1998~2001
	大正金時	7.11	8.31	0.8	3.9	41	17.1	263	100	70.7	3 下	
	福 勝	7.12	9. 4	1.2	2.3	45	16.5	301	114	83.9	3 中	
北見農試	福良金時	7.16	9. 6	1.9	1.9	43	16.3	282	104	80.8	3 中	1998~2001
	大正金時	7.15	9. 6	1.6	3.0	41	16.5	272	100	73.1	3 下	
	福 勝	7.16	9.12	2.0	2.4	45	15.2	288	106	84.3	3 中	
上川農試	福良金時	7. 6	8.17	2.9	1.7	47	16.9	247	104	68.9	2 中	1998,2000, 2001
	大正金時	7. 5	8.18	2.9	2.8	46	17.2	237	100	62.0	2 下	
	福 勝	7. 6	8.21	2.8	3.3	47	16.3	279	118	75.5	2 下	
遺伝資源 センター	福良金時	7. 4	8.15	1.3	1.3	33	16.9	217	106	69.0	2 中	1998~2001
	大正金時	7. 4	8.17	1.1	2.6	33	16.7	204	100	62.0	2 下	
	福 勝	7. 5	8.19	1.1	3.1	36	14.7	248	122	73.1	2 中	

注1)倒伏程度：0(無)~4(甚)，葉落良否：1(良)~5(不良)。

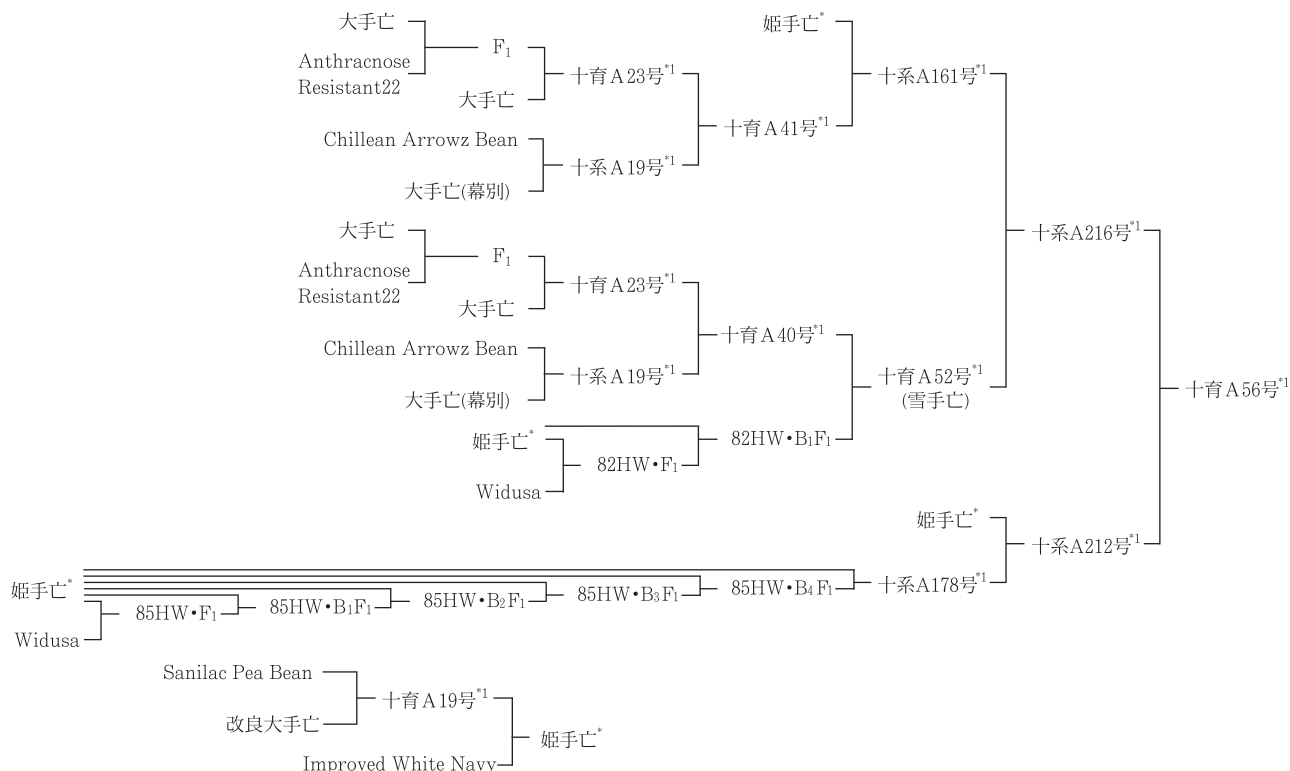
参照 1) 北海道農政部編，平成14年普及奨励ならびに指導参考事項，4-6 (2002)。

(3) (系統名 十育A56号) 2004年
登録番号：(北海道) 菜豆北海道29号
(種苗法) 第 号

セールスポイント

あん色が白く明るい色調で，粒あん加工適性に優れ，インゲン炭そ病抵抗性の手亡類品種である。

来歴 本品種は，炭そ病抵抗性で加工適性に優れた良質の手亡類品種の育成を目標とし，1995年に北海道立十勝農業試験場において，「十系A216号」を母，「十系A212号」を父として人工交配を行い，以後選抜と固定を図り育成した。2000年からは「十系A283号」，2001年からは「十育A56号」の系統名で各種の試験を行い，2004年に優良品種となった。本品種の系譜は次のとおりである。



注) *1：十育及び十系番号についたアルファベットについてAが手亡類であることを示す。

特性概要

1. 伸育性と草型は有限そう性であり、草丈は「姫手亡」及び「雪手亡」よりやや低いが、両品種と同じ高に属する。
2. 胚軸色は緑で、花色は白、若莢の地色は淡緑、若莢の斑紋は「姫手亡」と同じ赤紫のぼかし斑である。
3. 子実は楕円体、大きさは「姫手亡」「雪手亡」の小に対し、より大きくやや小に属する。種皮色は白で、斑紋と環色はいずれもなしである。
4. 開花期は「姫手亡」と同じ中であるが1日程度早く、成熟期は「姫手亡」より1日遅く、「雪手亡」より1日早く、両品種と同じやや晩に属する。収量性は「姫手亡」よりやや低収であり、とくに極端な低温条件下では減収率が大きい。
5. 耐倒伏性はやや弱、インゲン炭そ病抵抗性はRace 7, 38, 81の3レースに対し抵抗性を有する。インゲ

ン黄化病抵抗性は「姫手亡」「雪手亡」と同じやや強である。

6. 加工適性は、水漬後の未吸水粒率がかなり低く、「姫手亡」よりも低い。「姫手亡」「雪手亡」よりもあん粒子径は小さく、あん付着性は高い。

栽培適地と奨励態度

北海道のいんげんまめ作付け地帯で、道東の特に冷涼な地帯を除く地帯において、「姫手亡」の一部に置き換えて栽培する。栽培上の注意は次のとおりである。①極端な低温条件下では減収率が大きいので、特に気象条件の厳しい地帯での栽培は避けるのが望ましい。②極端な多肥栽培では倒伏を助長し、成熟期における葉落ちが不良になることがある。③インゲン炭そ病防除の茎葉散布は不要であるが、他病害には従来の品種と同様に罹病するので防除を行う。

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒 伏 程 度	葉 落 良 否	草 丈 (cm)	莢 数 (/株)	10 a 当り		百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次
								子実重 (kg)	同左比 (%)			
十勝農試	十育A56号	7.26	9.29	2.8	2.2	54	35.2	362	93	40.6	3上	2001～2003
	姫手亡	7.25	9.28	2.7	2.0	58	33.9	389	100	32.6	3上	
	雪手亡	7.26	9.30	2.2	1.9	66	33.3	402	103	34.1	2中	
北見農試	十育A56号	7.24	9.27	3.2	3.4	59	35.3	361	90	40.7	2上	2001～2003
	姫手亡	7.23	9.24	3.3	2.5	62	36.0	401	100	33.4	2上	
	雪手亡	7.25	9.25	3.3	2.2	64	39.0	434	108	34.0	2上	
上川農試	十育A56号	7.13	9.1	3.4	3.0	64	30.8	334	92	38.0	2下	2001～2003
	姫手亡	7.13	9.1	3.3	3.5	68	31.8	362	100	31.9	2下	
	雪手亡	7.13	9.3	2.9	4.2	73	30.2	381	105	33.0	2中	
中央農試	十育A56号	7.31	9.29	2.4	2.4	57	29.0	363	99	40.8	2中	2002～2003
	姫手亡	7.31	9.29	2.4	2.2	58	30.7	368	100	33.2	3上	
	雪手亡	7.31	9.30	2.5	2.9	58	28.5	384	104	35.4	3中	

注1)倒伏程度：0(無)～4(甚)、葉落良否：1(良)～5(不良)。

参照 1) 北海道農政部編、平成16年普及奨励ならびに指導参考事項、43-45 (2004)。

7. 花豆

- (1) ^{しろはなっこ}白花っ娘 (系統名 中育M52号) 2004年
登録番号：(北海道)花豆北海道第2号
(種苗法)第 号

セールスポイント

「大白花」に比べ粒が大きく、外觀品質に優れ、網走地方で、大粒規格の製品収量が大きく上回る白花豆品種である。

来歴 本品種は、早生、極大粒高品質の白花豆品種育成を目標に、1991年に北海道立中央農業試験場が農林水産省農業生物資源研究所放射線育種場に依頼し、「大白花」にγ線を照射し、粒大変異を誘導後、選抜と固定を図り育成した。1998年より「中育M52号」の系統名で各種試験を行ない、2004年に優良品種となった。

特性概要

1. 形態的特性は「大白花」に類似しているが、「大白

花」と比べ莢の幅が広く、粒が大きい。開花期は「大白花」と同じであるが、成熟期は若干遅い。

2. 莢数は「大白花」とほぼ同等、一莢内粒数はやや少なく、百粒重は重い。子実重は「大白花」並からやや劣る。
3. 栽培適地である網走地方では、大粒規格の5分上収量（5分の篩目上に残る子実重）は「大白花」を上回る。
4. 煮熟後の子葉および種皮の硬さは「大白花」よりやや柔らかく、甘納豆、煮豆およびコロッケの加工適性は「大白花」とほぼ同等である。

栽培適地と奨励態度

網走地方のべにばないんげん栽培地帯で「大白花」の大半に置き換えて栽培する。栽培に当たっては開花盛期の窒素追肥による増収効果が「大白花」同様に高いので、同技術の適用に努める。熟莢率が低いので、適期に根切りを行なうとともに、立毛で十分な乾燥を行う。採種栽培では、他のべにばないんげんと自然交雑を避けるため、十分な隔離栽培に努める。大粒なので、脱穀時の回転数を調節し損傷粒の発生を防ぐ。

試験場名	品 種 名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	莢数 (/株)	一莢内 粒 数	子実重 (kg/10a)	同左比 (%)	5分 上率 (%)	5分上 収 量 (kg/10a)	同左比 (%)	百粒重 (g)	品 質 (等級)	試験年次 (年)
中央農試	中育M52号 大 白 花	7.11	10.02	24.8	1.99	274	98	41	111	271	191	4 上	1998~2001
		7.11	10.01	26.3	2.40	281	100	15	41	100	160	4 上	
北見農試	中育M52号 大 白 花	7.14	(42)	51.1	2.89	328	96	21	68	234	176	2 下	2002~2003
		7.13	(44)	53.3	3.26	340	100	8	29	100	164	3 上	

注1)成熟期における()は収穫時における熟莢率を示す。

2)5分上重率：子実重全体の中で5分の篩目上(篩目15.2mm)に残る子実重の比率(%)。

3)5分上収量：5分の篩目上に残る子実重。

参照 1)北海道農政部編，平成16年普及奨励ならびに指導参考事項，46-48(2004)。

8. ばれいしょ

(1) アーリースターチ(系統名 北海72号)1996年

登録番号：(北海道)ばれいしょ北海道第30号

(農水省)ばれいしょ農林37号

(種苗法)第7892号

セールスポイント

ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を持ち、大粒で粒揃いが良いため、掘り残しが少なく、早掘りに適するでん粉原料用品種である。

来歴 本品種は大粒でん粉原料用のジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種育成を目標として、1979年に農林水産省北海道農業試験場において、「島系523号」を母、「R392-50」を父として、交配した組合せから選抜したもので、1988年より「島系550号」、1991年からは「北海72号」の系統名で各種の試験を行い、1996年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。

特性概要

1. そう性は中間型で、茎長は「コナフブキ」より短い

中、茎の太さは中、茎色は緑色で、分枝数は「コナフブキ」と同等の中である。葉色は緑色、小葉は大きく、毛茸が少なく光沢がある。花色は濃い赤紫色で、白色が両面先に分布する。花の数は多く、花粉は少なく、自然結果は認められない。

2. 塊茎は扁球形で揃いが良く、大粒で、皮色は白黄色、目の深さは中で、尻もやや深い。肉色は白色である。
3. 初期生育は中であるが、いもの早期肥大性はやや早く、特に一個重の増加が早い。枯凋期は「コナフブキ」よりやや早い中晩生で、塊茎の休眠期間はやや長い。
4. 9月上旬の早掘り収穫におけるでん粉収量は「コナフブキ」をやや下回るものの「紅丸」を上回る。普通掘りでは、上いも収量は「コナフブキ」並で、株当り上いも数は少ないが、上いも平均一個重は極めて重く、粒揃いが良い。でん粉価は「コナフブキ」よりやや低い。でん粉収量は「紅丸」「コナフブキ」にやや劣る。
5. でん粉粒子の大きさ、灰分及びリン含量はほぼ「コナフブキ」並である。
6. ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有し、疫病菌による塊茎腐敗抵抗性は中、そうか病には弱、粉状そ